

科目名	小児看護学方法論Ⅱ	担当講師	海藤望(教員)	
開講年次	2年生前期・後期	単位数	1単位	
授業形態	講義	時間数	20時間	
学習目的	小児期にみられる主要な健康障害について学び、また、障害をもつ小児の看護について学ぶ。			
学習目標	1. 健康課題をもつ子どもと家族への看護について理解できる。 2. 小児看護の思考過程を学ぶ。 3. 小児看護で必要となる看護技術を修得する。			
授業計画	回数	担当講師	授業計画	備考(準備・予習・復習など)
	第1回	海藤望	病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護	
	第2回			
	第3回			
	第4回			
	第5回		成長発達アセスメントシートによる看護過程の展開	【気管支喘息】
	第6回			【気管支喘息】 ※教員より指導を受けて追加修正
	第7回			【気管支喘息】
	第8回			【看護過程の発表会】
	第9回			小児看護技術
	第10回			
成績評価方法	終講試験(ペーパーテスト)、講義内評価を合計し100点満点とし、60点以上を合格とする			
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 医学書院			
参考図書	国民衛生の動向			
関連科目	成人看護学・母性看護学・精神看護学			
備考 (学生へのメッセージ)	授業時間外の学習として疾患ワークシート・小児看護技術・小児看護過程を行います			

科目名	母性看護学方法論 I	担当講師	河野弘美（助産師） 横山 恵史香（助産師）
開講年次	2年生後期	単位数	1単位
授業形態	講義	時間数	30時間
学習目的	妊娠・分娩・産褥期を通して、母子の健康を維持・促進し、母子及びその家族に対して必要な看護を学ぶ。		
学習目標	1. 母性の発揮を促す看護が理解できる。 2. 妊娠・分娩・産褥の経過と看護が理解できる。 3. 新生児の経過と看護が理解できる。		
授業計画	回数	授業計画	担当講師・教員
	第1回	1. 母子の発揮を促す看護 1) 子どもを産み育てること 2) 遺伝相談 3) 不妊治療と看護	河野弘美
	第2回	2. 妊娠期における看護・妊娠の生理 1) 胎児の発達とその生理 2) 母体の生理的变化 3) 妊娠の生理 4) 妊婦と家族および社会	
	第3回	5) 妊娠の経過と診断 6) 胎児の発達と健康状態の診断 7) 妊婦と胎児の健康状態のアセスメント 8) 妊婦と家族の心理・社会面のアセスメント	
	第4回	9) 妊婦の保健相談と実際 10) 親になるための準備	
	第5回	3. 分娩期における看護 1) 分娩の要素 2) 分娩経過 3) 産婦と胎児の健康状態のアセスメント 4) 産婦と家族の心理・社会面のアセスメント及び看護上の問題 5) 看護目標と産婦のニーズ 6) 安全安楽な分娩の看護	
	第6回	7) 出産体験が肯定的になる為の看護 8) 基本的ニーズに関する看護 9) 分娩1期の看護 10) 分娩2期の看護	
	第7回	11) 分娩3・4期の看護	
	第8回		
	第9回	4. 産褥期における看護 1) 産褥経過 2) 産褥期の心理・社会的変化 3) 産褥経過の診断 4) 褥婦の健康状態のアセスメント 5) 身体機能の回復および進行性変化の看護	横山恵史香
	第10回	6) 児と関係確立への看護 7) 育児技術に関わる看護 8) 家族関係再構築の看護 9) 育児不安と育児支援 10) 社会復帰	
	第11回	5. 新生児期における看護 1) 新生児とは 2) 新生児の機能 3) 新生児の診断 4) 新生児の健康状態のアセスメント 5) 出生後から退院までの看護	
	第12回	6. 周産期における安全 1) 転倒・転落予防 2) 取り違い予防 3) 感染予防 4) 窒息予防 5) 低体温予防 6) 熱傷予防 7) 連れ去り予防	
	第13回		
	第14回		
第15回			
成績評価方法	終講試験（ペーパーテスト）・演習 河野講師（50点）横山講師（50点）を合計し100点満点とし、60点以上を合格とする		
教科書	系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院		
参考図書			
関連科目			
備考 <small>（学生へのメッセージ）</small>			

科目名	母性看護学方法論Ⅱ		担当講師	小路綾乃(助産師) 廣田美和子(教員)
開講年次	2年生後期		単位数	1単位
授業形態	講義		時間数	30時間
学習目的	ハイリスク時の状態を理解し、その看護について学ぶ。			
学習目標	1. ハイリスク妊娠・分娩・産褥・新生児の病態と治療・看護が理解できる。 2. 周産期にある対象の看護過程の展開ができる。			
授業計画	回数	担当講師	授業計画	備考(準備・予習・復習など)
	第1回	小路綾乃	ハイリスク妊娠・妊娠高血圧症候群 妊娠中に注意すべき感染症・異所性妊娠・流早産	正常妊娠について復習 妊娠週数の理解
	第2回	小路綾乃	妊娠高血圧症候群と子癇 HELLP症候群と急性妊娠脂肪肝 早産の看護 分娩時の異常	正常分娩の週数 帝王切開の適応
	第3回	小路綾乃	分娩時の異常 回旋異常 胎児機能不全とCTG 妊娠中禁忌のアロママ	骨盤と胎児モデルでの実践 NSTモニターの見方(正常・異常)
	第4回	小路綾乃	帝王切開の適応とクリティカルパスの把握 新生児の異常	帝王切開の動画
	第5回	小路綾乃		
	第6回	小路綾乃	産褥期の異常 精神疾患合併妊娠と看護 症例問題	正常産褥の経過の復習 状況設定問題の解説で理解を深める
	第7回	小路綾乃		
	第8回	廣田美和子	看護過程 産褥期の看護について事例を通して学ぶ ・ウェルネスの思考に基づいた看護 ・実施、評価までのプロセス	
	第9回			
	第10回			
	第11回		沐浴演習	評価表に基づいた実施について説明を含む
	第12回			
	第13回		指導技術発表会	
	第14回			
第15回				
成績評価方法	終講試験(ペーパーテスト)、看護過程(指導技術)発表評価 小路講師(50点) 廣田教員(50点)を合計し100点満点とし、60点以上を合格とする			
教科書	系統的看護学講座 系統看護学講座	専門分野 専門分野	母性看護学各論 母性看護学概論	医学書院 医学書院
参考図書				
関連科目				
備考 (学生へのメッセージ)				

科目名	精神看護学目的・対象論	担当講師	田久正代（看護師）井本英紀（看護師）
開講年次	2年生前期・後期	単位数	1単位
授業形態	講義	時間数	30時間
学習目的	精神看護学の対象である心について学習し、心の健康の保持・増進の為の援助を学ぶ。		
学習目標	1. 看護学における精神看護学の位置づけが理解できる。 2. 各ライフサイクル別に見られる心の発達と健康問題について理解できる。 3. 環境が心の健康に及ぼす影響が理解できる。 4. 危機状況とその介入方法、予防、コンサルテーションが理解できる。 5. 精神医療の歴史的変遷が理解できる。 6. 精神保健福祉の法的制度が理解できる。		
授業計画	回数	授業計画	
	第1回	1. 精神看護学で学ぶこと	第1章
	第2回	2. 精神（心）のとらえ方	第2章
	第3回		
	第4回	3. 精神（心）の発達に関する主要な考え方	第3章
	第5回		
	第6回	4. 家族と精神（心）の健康	第4章
	第7回		
	第8回		
	第9回		
	第10回	6. 精神（心）の危機状況と精神保健	
	第11回		
	第12回		
	第13回	7. 現代社会と精神（心）の健康	第7章
	第14回	8. 精神保健医療福祉の歴史と現在の姿	
第15回			
成績評価方法	終講試験（ペーパーテスト） 田久講師（80点）井本講師（20点）を合計し100点満点とし、60点以上を合格とする		
教科書	系統的看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 医学書院		
参考図書			
関連科目			
備考 (学生へのメッセージ)			

科目名	精神看護学方法論Ⅰ	担当講師	藤井障三(医師) 萱野友成(看護師)		
開講年次	2年生後期	単位数	1単位		
授業形態	講義	時間数	30時間		
学習目的	精神に障害を持つ対象の疾患、症状を理解し、精神に障害を持つ対象とその家族に看護する基礎を学ぶ。				
学習目標	1. 精神障害が日常生活に及ぼす影響を知り、その看護を理解できる。 2. 精神に障害を持つ対象の検査及びその看護を理解できる。 3. 精神に障害を持つ対象の治療及びその看護を理解できる。 4. 精神科におけるリスクマネジメントの種類と予防策を理解できる。 5. 精神に障害を持つ対象の家族への援助を理解できる。 6. 精神保健福祉活動における看護の機能と役割を理解し、看護の課題について考えることができる。 7. 日本の精神看護の発展について理解できる。				
授業計画	回数	担当講師	授業計画	備考(準備・予習・復習など)	
	第1回	藤井障三	1. 精神障害をもつ人の抱える症状と診断のための検査	1) 診察 2) 一般検査・画像検査 3) 心理検査	第5章
	第2回		2. 主な精神疾患/障害	1) 精神疾患/障害の診断基準・分類 2) 主な精神疾患/障害	第6章
	第3回		3. 主な治療法	1) 薬物療法 2) 電気けいれん療法 3) リハビリテーション療法 4) 精神療法	
	第4回				
	第5回				
	第6回				
	第7回				
	第8回	萱野友成	4. 精神障害をもつ人との看護援助の展開	1) 看護援助の基本構造	第8章
	第9回			2) セルフケアの援助	第11章
	第10回			3) セルフマネジメント	第12章
	第11回		5. 精神障害をもつ人への看護	1) 事故防止・安全管理と倫理的配慮 2) 精神疾患/障害をもつ人への看護 3) 精神疾患/障害をもつ子どもへの看護 4) 身体疾患を合併している患者への看護	第10章
	第12回				
	第13回				
	第14回		6. 地域における生活への支援	1) 地域生活の再構築と社会参加 2) 精神障害をもつ人の地域生活支援の実際 3) 家族への支援	第13章
第15回	7. 日本の精神看護の発展		1) リエゾン精神看護 2) 司法精神医療と看護 3) 災害時の精神看護	第14章 第15章 第16章	
成績評価方法	終講試験(ペーパーテスト) 藤井講師(50点) 萱野講師(50点)を合計し100点満点とし、60点以上を合格とする				
教科書	系統的看護学講座 精神看護の基礎、 精神看護の展開 医学書院				
関連科目					
備考 (学生へのメッセージ)	多くの事例から精神看護の実践を考える 実践の場での経験から伝えたい				

科目名	看護研究	担当講師	後藤成人(大学教授)
開講年次	2年生前期	単位数	1単位
授業形態	講義	時間数	30時間
学習目的			
学習目標			
授業計画	回数	授業計画	備考(準備・予習・復習など)
	第1回	看護研究とは何のために行うのか	
	第2回	看護研究の始め方	
	第3回	看護研究の種類	
	第4回	看護研究の方法と選び方	
	第5回	看護研究のまとめ方	
	第6回	研究結果を発表しよう	
	第7回	学会発表の意義と方法	
	第8回	論文投稿の意義と方法	
	第9回	ケーススタディを体験してみよう	自分たちの実習レポートを準備する
	第10回	テーマの決め方	自分たちの実習レポートを準備する
	第11回	自分の事例を振り返ろう	自分たちの実習レポートを準備する
	第12回	要旨を書いてみよう	自分たちの実習レポートを準備する
	第13回	ポスターセッションをしてみよう	自分たちの実習レポートを準備する
	第14回	発表練習①	自分たちの実習レポートを準備する
第15回	発表練習②	自分たちの実習レポートを準備する	
成績評価方法	終講試験・演習 と ※ミニレポート(毎回提出)と筆記試験を合計し100点満点とし、60点以上を合格とする。		
教科書	指定なし		
参考図書	別途資料配布		
関連科目			
備考 (学生へのメッセージ)	卒業後2年目で研究を任されることが多いため、研究に関する基本的なことを講義とアクティブラーニングの手法で伝えます。		

科目名	臨床治療論Ⅱ	担当講師	日高啓(医師) 成吉章江(教員)	
開講年次	2年生前期	単位数	1単位	
授業形態	講義	時間数	15時間	
学習目的	看護の視点での臨床検査と、その結果をアセスメントできる基礎的知識を理解できる。			
学習目標	看護の視点での疾病回復を促進する放射線療法の基本的知識について理解できる。			
授業計画	回数	担当講師	授業計画	備考(準備・予習・復習など)
	第1回	成吉章江	1. 臨床検査の種類とその結果 1) 一般検査・血液検査 2) 生理機能検査 3) 内視鏡検査 4) 検査の読み取り方 (疾患との関連)	
	第2回			
	第3回			
	第4回			
	第5回	日高啓	2. 放射線法 1) 放射線の性質と検査の種類 X線撮影・CT・MRI 核医学検査・超音波検査 2) 人体に対する放射線の影響 3) 悪性腫瘍と放射線療法 4) 放射線防御の基本と健康管理 6) 画像の読み取り方	
	第6回	日高啓		
	第7回	日高啓		
成績評価方法	終講試験(ペーパーテスト) 日高講師50点、成吉教員50点を合計し100点満点とし、60点以上を合格とする			
教科書	系統的看護学講座 専門分野 医学書院			
参考図書				
関連科目				
備考 (学生へのメッセージ)				

科目名	医療安全	担当講師	熊智子 (看護師・医療安全管理者)
開講年次	2年生前期	単位数	1単位
授業形態	講義・演習	時間数	30時間
学習目的	医療安全の基礎的知識を理解し、その知識を基に安全に医療・看護を提供できる基礎的能力を養う。		
学習目標	1. 医療安全の歴史と医療安全を学ぶうえで必要な用語の定義を説明できる。 2. 医療安全と看護の責務に関する法令・制度について説明できる。 3. 国や医療機関の医療安全対策の取り組みを説明できる。 4. 医療事故の発生要因とメカニズムについて説明できる。 5. 看護業務に関する主な医療事故の一連の安全対策（背景・要因分析・対策・実施）について説明できる。 6. 医療機関（組織）における医療安全管理システムについて、その概要を説明できる。 7. 安全な看護を提供するための自己の課題について考察できる。		
授業計画	授業回数（方法）	授業計画	授業外学習 (準備・予習・復習など)
	第 1 回 (講義) 4/4	ガイダンス 医療安全の意味とその重要性～医療安全をなぜ学ぶのか～ 1.医療安全の意味とその重要性について 2.看護職の法的責任と医療安全について	テキスト 第1章 ※指定した教科書を事前に 読んでおくこと。
	第 2 回 (演習) 4/11	診療の補助における事故と安全対策を考え理解する～その1～ 1) 注射業務 2) 輸液ポンプ・シリンジポンプ 3) 輸血業務 4) 内服業務 5) 経管栄養業務 6) チューブ管理	テキスト 第2章 ※指定した教科書を事前に 読んでおくこと。
	第 3 回 (講義・演習) 4/18		
	第 4 回 (講義・演習) 4/25	発表 1) 注射業務 2) 輸液ポンプ・シリンジポンプ 3) 輸血業務 4) 内服業務 5) 経管栄養業務 6) チューブ管理	グループワークの 進捗状況により変更の 可能性があります。 ※発表方法については 当日説明します。
	第 5 回 (講義) 5/2	療養上の世話の事故防止 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因	テキスト 第3・4章 ※指定した教科書を事前に 読んでおくこと。
	第 6 回 (講義・演習) 5/9	医療安全とコミュニケーション 安全文化のためのコミュニケーション ～コミュニケーションをとってみよう！～ 1.TeamsSTEPPS（チームステップス）の体験	テキスト 第5章 ※指定した教科書を事前に 読んでおくこと。 資料
	第 7 回 (講義) 5/30	地域における在宅療養者の安全 1.在宅看護における医療事故とその対応について 2.在宅看護におけるリスク管理の現状と課題について	テキスト 第6章 ※指定した教科書を事前に 読んでおくこと。
	第 8 回 (講義) 6/6	医療従事者の安全を脅かすリスクとそれぞれの対策の理解 1.感染を伴う病原体への暴露について 2.感染に対する標準予防策と感染経路別予防策について 3.その他の暴露について 4.病院及び訪問看護での暴力について	テキスト 第7章 ※指定した教科書を事前に 読んでおくこと。
	第 9 回 (講義・演習) 6/13	事故発生のメカニズムとリスクマネジメント 1.ヒューマンエラーの発生メカニズム 2.事故分析の考え方と分析方法 3.事故分析	資料

	授業回数(方法)	授業計画	授業外学習 (準備・予習・復習など)
授業計画	第 10 回 (講義) 6/20	医療事故発生後の対応～医療事故が発生したらあなたは？～ 1.医療事故発生時の初期対応 2.紛争化への防止対策・医療コンフリクト・マネジメント 3.患者・家族と医療従事者への支援	資料
	第 11 回 (講義) 6/27	組織的な安全管理体制への取り組み ～一人では防げない！全員参加の医療安全～ 1.チーム医療と安全文化の醸成 2.組織としての安全対策 3.医療安全管理者の役割と業務 4.医療事故防止のためのコミュニケーション	テキスト 第8章 ※指定した教科書を事前に 読んでおくこと。
	第 12 回 (講義) 7/4	医療安全対策の国内外の潮流	テキスト 第9章 ※指定した教科書を事前に 読んでおくこと。
	第 13 回 (演習) 7/11	テーマ「医療安全における看護職者の役割と自己の課題」 個人のレポートに、自分なりのテーマをつけ、自己の 考えをまとめてください。	
	第 14 回 (演習) 7/18	表紙 自己のテーマ、学籍番号、氏名を記入 ※ テーマのみ、14P レポートの様式設定 Wordの場合 文字数・行数設定・・・40字・40行 A4用紙、MS明朝体、10.5P、文字数1400～1600字	
第 15 回 (演習) 7/19	グーグル ドキュメントの場合 A用紙、上下余白・・・3cm、左右余白・・・2cm 提出日：令和6年7月19日 授業終了時まで		
成績評価方法	<p>終講試験（ペーパーテスト）にて80点、課題レポートにて20点の配点とします。 双方合わせて100点を満点とし、60点以上を合格とし評価します。 授業態度、グループワークへの取り組み</p>		
教科書	系統看護学講座 専門 医療安全 看護の統合と実践2		
参考図書	ナースィング・グラフィカ 医療安全 看護の統合と実践② 医療安全ワークブック		
関連科目	基礎看護技術、感染症、在宅看護論		
備考 (学生へのメッセージ)	医療安全の授業は、自分自身の身を守るために必要な内容です。しっかり学んでください。		

科目名	問題解決活用法 II	担当講師	南智美(教員)	
開講年次	2年生前期	単位数	1単位	
授業形態	講義・演習	時間数	20時間	
学習目的	臨床の状況変化にともなう思考・判断ができるよう、臨床的な思考の基礎的能力を学ぶ			
学習目標	1. 専門分野の領域ごとに治療や療養の場、対象の状況・変化に気づく視点が理解できる。 2. 専門分野の領域ごとに、必要な情報を収集する視点が理解できる。 3. 専門分野の領域ごとに、状況や変化に応じて何をすべきか推論する。			
授業計画	回数	担当講師	授業計画	備考(準備・予習・復習など)
	第1回	南智美	1. 臨床判断の基礎知識 1)臨床判断とは 2)臨床判断の構成概念 3)臨床判断のプロセス 4)看護過程と臨床判断の関連	
	第2回	南智美	2. 臨床判断実践シミュレーション	
	第3回	南智美	3. 臨床判断実践シミュレーション	
	第4回	南智美	4. 臨床判断実践シミュレーション	
	第5回	南智美	5. 臨床判断実践シミュレーション	
	第6回	南智美	6. 複数患者対応時の優先順位 複数患者事例を通して、優先順位を考える。	
	第7回	南智美	7. 臨床現場で遭遇する臨床推論事例 (腹痛・咳嗽・発熱)	
	第8回	南智美	8. 臨床現場で遭遇する臨床推論事例 (腹痛・咳嗽・発熱)	
	第9回	南智美	9. 精神疾患を持つ患者の事例	
	第10回	南智美	まとめ	
成績評価方法	終講試験(ペーパーテスト)100点満点とし、60点以上を合格とする			
教科書				
参考図書	解剖生理学・基礎看護学・臨床看護 等			
関連科目				
備考 (学生へのメッセージ)				

科目名	薬物療法と看護	担当講師	廣田美和子(教員)	
開講年次	2年生前期	単位数	1単位	
授業形態	講義・演習	時間数	20時間	
学習目的	薬理作用の基礎知識に基づき、薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び管理について学ぶ。			
学習目標	1. 対象特性と薬物療法の特徴と看護師の役割が理解できる。 2. 発達段階における薬物療法の特徴と看護師の役割が理解できる。 3. 薬物療法における多職種との連携について思考できる。			
授業計画	回数	担当講師	授業計画	備考(準備・予習・復習など)
	第1回	廣田美和子	1. 薬物療法の基礎知識の確認	
	第2回	廣田美和子	2. 対象の特性と薬物療法(老年)	
	第3回	廣田美和子	3. 対象の特性と薬物療法(小児・母性)	
	第4回	廣田美和子	4. ハイリスク患者と薬物療法(腎不全・肝不全)	
	第5回	廣田美和子	5. 成人の薬物療法の指導の実際	
	第6回	廣田美和子	6. 高齢者の薬物療法の指導の実際	
	第7回	廣田美和子	7. 小児の薬物療法の指導の実際	
	第8回	廣田美和子	8. 妊婦の薬物療法の指導の実際	
	第9回	廣田美和子	9. 精神疾患患者の薬物療法の指導の実際	
	第10回	廣田美和子	10. 看護師と医師・薬剤師のチーム医療	
成績評価方法	終講試験(ペーパーテスト)100点満点とし、60点以上を合格とする			
教科書	系統的看護学講座 専門分野 医学書院			
参考図書				
関連科目				
備考 (学生へのメッセージ)				